

ときを越え
受け継がれるもの

献膳の儀（六日入白山神社）

＝旧六日入村（前沢区白山）＝

収穫間近となった前沢区白山地区の田園風景の中を、かみしも袴姿の行列が厳かに歩みを進める。市指定無形民俗文化財の六日入白山神社献膳の儀は、15年前から毎年欠かさず行われている。献膳は、五穀豊稔の祈願や感謝を行う祭事。1カ月ほど前から、小麦や大豆などの穀物を大枠に貼り付け、料理を模した「盛立」と紙製の「献花」が作られる。当日は、献膳宿で神事を行った後、総代などが行列を組み、盛立と献花を白山神社まで運び奉納する。献膳の儀は、旧暦の8月1日が例祭日。昔は講中で行い、約1週間は精進して準備に当たる厳しいものだったが、戦後は集落の持ち回りに移行している。継続を願う地域の思いにより、ことから9月の第3土曜日に行うこととした献膳の儀。脈々と継承されてきた伝統は、今後も絶やすことなく地域に受け継がれていく。



①行列が境内に到着して鳥居をくぐる天狗役 ②献膳宿の配膳壇に並べられた「盛立」と「献花」 ③献膳宿から神社まで厳粛に進む献膳行列 ④六日入白山神社の拝殿。ここで奉納が行われる



広告